



# 福岡県立大学広報

Fukuoka Prefectural University

# Kendai

magazine 2017 秋号

no.23

## Contents

入学式、田川飛翔塾	P2
オープンキャンパス、秋興祭	P3
国際学術シンポジウム、日独国際シンポジウム	P4
国際交流、交換留学4年次卒業ルートについて	P5
認証評価を受けて、図書館のPC導入について、 ひまわりの寄贈について	P6
九州北部災害ボランティア、 心理教育相談室10周年記念	P7
サークル紹介	P8
教員研究紹介	P9
新規採用教員紹介	P10・11
科学研究費／基金	P12

# 福岡県立大学 入学式

平成29年4月4日、江口副知事をはじめ多くの来賓の皆様のご臨席をいただく中、平成29年度の入学式を挙行し、人間社会学部169名、看護学部93名、大学院23名、計285名が入学しました。

柴田学長は告辞の中で、「勉学に、サークル活動に、ボランティア活動に、志を高くもって、あらゆる面で積極的に行動してください。そして、●人を気遣い痛みを分かち合える暖かな心 ●現実を直視し適切に対応できる冷静な判断力 ●人のために尽くす積極的な行動力の3つを兼ね備えた人となって欲しい」と述べました。

また、小川知事の代理としてご出席いただいた江口副知事から「●一生懸命に学び、知識や技術の習得に努めてください。●多くの経験を積み、人間力を高めてください。●困難な状況に直面した時や重要な決断をする必要がある時は、必死に考え、結論を出した後は、失敗を恐れず行動してください。●一生付き合える友人を多く見つけてください。」と祝辞をいただきました。

これを受け、学部入学生を代表して人間社会学部の吉村大樹さんが「知性を磨き教養を深め将来の社会人としての基礎を養うことに努めます」、大学院入学生を代表して看護学研究科の吉田裕美さんが「一層勉学に勤め保健・医療・福祉の分野で貢献できる専門的職業人としての基礎を養うことに努めます」と宣誓しました。

締めくくりに、吹奏楽団の伴奏により、新入生や会場のみなさん全員で学歌を斉唱し、式を終了しました。



▲告辞を述べる柴田洋三郎学長



▲学部入学生代表 吉村大樹さん



▲大学院入学生 吉田裕美さん

## 田川飛翔塾

平成29年8月9日、田川地域1市6町1村の中学2年生30名が参加する「田川飛翔塾」の入塾式が本学で行われ、その中で小川洋福岡県知事による訓話がありました。

田川飛翔塾は、各界のトップリーダーによる講義、他の中学校の生徒とのグループワークや合宿生活など学校生活では得られない体験を通して、将来さまざまな分野でリーダーとして活躍する人材の養成をするため、添田町の福岡県立英彦山青年の家を中心に実施されているサマースクールです。

今年度も本学から7名の学生が、講義、グループワークなど合宿生活全体を通して入塾した生徒の指導や支援をするスタッフとして参加し、運営に携わりました。

また、8月20日には柴田洋三郎学長、8月21日には森山沾一名誉教授による講義が福岡県立英彦山青年の家で行われました。





# OPEN CAMPUS



▲小論文解説

平成29年8月5日に夏のオープンキャンパスを開催しました。今回のオープンキャンパスは、炎天下にもかかわらず1,215名と多数の方が来場されました。来場者は、県内、九州各県にとどまらず、中国、四国、近畿、関東、中部、遠くは北海道から参加された方もおられました。

当日は、学長、各学部長からのメッセージをはじめ、各学科の説明会、本学の「小論文・英語」における入試対策のポイントの解説、在校生・教員と直接会話ができる「個別相談コーナー」、看護・心理学を体験できる「体験コーナー」「寮見学」「キャンパスツアー」等のプログラムを実施しました。

来場者からは、「小論文解説で勉強方法や傾向などを紹介してくれて、とても参考になった。」「学科説明を聞くことで、パンフレットを見ただけでは分からなかったことまで知れてよかった。」「在校生と話せて色々なことがわかってよかった。」「実際に色々体験できてよかった。」等のお声をいただき、ご来場いただいた高校生等に本学の魅力を伝える大変有意義な一日となりました。



▲看護学体験（妊娠・出産・育児体験）コーナー



▲心理学体験（質問に答えて、自分の性格を知ろう）コーナー

## 第26回 秋興祭

11月11日(土)・12日(日)



今年で26回目を迎える秋興祭は、現在秋興祭実行委員131人という大所帯で日々の活動に取り組んでいます。実行委員は、6つの部署（宣伝・企画・渉外・設備管理・会場設営・イベント）に分かれ、多岐にわたる分野で企画・運営を行っております。

第26回のテーマは「紡～ぼくらの糸で織り成す輝跡～」です。このテーマにはこれまで25回の秋興祭の歴史と、実行委員の汗と涙、ご協力してくださる地域の皆様、本大学の学生、ご来場くださるお客様など全ての皆様の想いの糸と今年の実行委員の想いの糸とを紡いで、また新たな足跡を残せるよう、そしてそれがこれからも繋がっていきますようにとの願いが込められています。

秋興祭に足を運んでくださる皆様にとって最高の2日間になりますよう、楽しい企画、ステージをご用意しております。

秋興祭当日、お客様が楽しめる2日間にするのはもちろんのこと、実行委員自身が楽しむことが秋興祭を盛り上げ、皆様に笑顔にすることに繋がると思っております。自分たちが作り上げたものを自信を持ってご提供できるよう、これから当日に向け、ますます精進してまいります。

これからも秋興祭は「完成されない場所」として進化し続けていきます。今年もまた、新たな面々で皆様に心よりお待ちしております。ぜひご来場ください。

第26回秋興祭実行委員長 加藤 優花

## 国際学術シンポジウム

平成29年4月28日に「認知症の方とその家族への地域支援—看護と福祉の連携を考える—」と題した国際学術シンポジウムが開催されました。今回は田川市が共催のため、看護・福祉の関係者や学生のほかに、多くの市民の方々にも足を運んでいただき、300名を超える参加者で講堂はほぼ満席となりました。

最初のパネラーは、ドイツからお招きしたリアーネ・パイリッヒ先生（NRWカトリック大学副学長・教授）で、認知症の方と家族の介護状況を「二人乗りの自転車」に例えられ、両者に対するケースマネジメント支援の特徴とケースマネージャーの役割、アーヘン市での認知症支援ネットワークの取り組みを説明されました。

次に、本学教員の本郷秀和教授（人間社会学部）より、同居家族への社会的支援の必要性とその具体的支援について、さらに山口のり子田川市地域包括支援センター長より、田川市が取り組む3つの「高齢者見守りネットワーク」と、認知症の方とその家族を支える地域づくりの活動内容について、ご紹介いただきました。

最後に、櫛直美准教授（看護学部）より、6つの要素からなる「介護力」を高めるための専門職者と地域社会との連携について、具体的内容を発題いただきました。

質疑応答では、参加者とパネラーが意見交換することができ、盛況のうちに閉幕しました。

福岡県立大学主催・田川市共催 国際学術シンポジウム

### 2017.4.28 (金)

12:50~14:30(受付 12:20~)  
福岡県立大学 講堂

超高齢社会の中で、認知症の方とその家族への地域支援とその他の専門職連携は、国際的な共通の課題です。  
このたびは、ドイツ・アーヘンにありすNRWカトリック大学副学長リアーネ・パイリッヒ教授をお招きして「効果的なケースマネジメントについて」講演をいただくことになりました。  
続いて、認知症家族支援のため如何に連携と福祉が連携していくかについて本学の教員から発題し、さらに田川市における認知症家族支援の課題について田川市地域包括支援センター長から発題し、今後の本学の課題、また田川市の課題を関係者、市民とともに共有していく機会としたいと存じます。

**参加費** 無料  
(どなたでも参加できます)

**問合せ先**

福岡県立大学国際学術シンポジウム実行委員会  
福岡県立大学 福岡県田川市甲田 4395 番地  
TEL: 0947-42-2118 (代表) FAX: 0947-42-1491  
実行委員長 梶井 勇 hoso@fukuoka-u.ac.jp  
事務局 徳 智恵 k-helga@fukuoka-u.ac.jp

主催：福岡県立大学  
共催：田川市



## 日独国際シンポジウム | 10月14日(土)

私たちが暮らし、学び、歴史を刻んできた田川市と筑豊地域—その魅力、次世代への継承、他地域との交流について広く意見交換を行い、今後の地域ビジョンを考えます。

基調講演では、かつてドイツ有数の炭鉱であり、現在はユネスコ世界遺産に登録され、年間訪問客150万人を数えるツォルフェアアインの挑戦について、前ルール博物館館長ウルリヒ・ボルスドルフ氏にお話しいただきます。続いて、「石炭産業終焉後の“地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—」をテーマにシンポジウムを行います。パネリストは、二場公人氏（田川市長）、安蘇龍生氏（田川市石炭・歴史博物館長）、川嶋克氏（ブンボ株式会社ディレクター、福岡県立大学卒業生）、江頭直行氏（伊田商店街振興組合理事長）、神谷英二氏（福岡県立大学教授）、金恩愛氏（福岡県立大学准教授）の6人、これまで田川市のまちづくりにさまざまな側面で携わってこられた方々です。石炭産業遺産の継承、田川市のスポーツ・文化交流の創造、商店街の振興活動、市民から見た田川市の住みやすさなど興味深い話題が盛りだくさんです。

10月14日(土) 13:00~17:00、会場は福岡県立大学講堂、参加は無料です。

皆様のご来場をお待ちしています。

Japan-German International Symposium

## 日独国際シンポジウム

(福岡県立大学特別公開講座)

「石炭産業終焉後の“地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—」

**参加無料**

■ 基調講演

「新たな地域文化を目指して—ユネスコ・世界遺産ツォルフェアアインの挑戦—」  
講師 **ウルリヒ・ボルスドルフ**  
ツォルフェアアイン・前ルール博物館館長  
通訳 田代 英美 三原 博光  
福岡県立大学教授、県立広島大学教授

■ シンポジウム **Gollereien**

テーマ: 「石炭産業終焉後の“地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—」

パネラー: 二場公人 田川市長 —「田川市の魅力を創出する—ドイツとの文化交流を中心に—」  
安蘇龍生 田川市石炭・歴史博物館長 —「石炭産業遺産を如何に継承するか」  
川嶋 克 ブンボ株式会社・ディレクター —「市民暮らしのまちづくり」  
江頭直行 伊田商店街振興組合理事長 —「商店街の復興—新たな文化の地帯—」  
神谷英二 福岡県立大学教授 —「ポスト工業社会における暮らしと文化」  
金 恩愛 福岡県立大学准教授 —「大学教員として、一田川市役として」

■ 日時: 2017年10月14日(土) 13時~17時  
(受付12時半~)

**会場: 福岡県立大学 講堂**

主催 福岡県立大学 共催 田川市 福岡女子大学 九州歯科大学  
後援 ドイツ連邦共和国駐福岡総領事館  
問い合わせ先 日独国際シンポジウム実行委員会  
梶井勇 (hoso@fukuoka-u.ac.jp) 田代英美 (fah1979@fukuoka-u.ac.jp)

# 国際交流



## （ 留学生支援事業 ）

本学では留学生が学生、教職員とともに県内の様々な地域を探訪する留学生支援事業を年に5回程度実施し、学生や教職員との交流を通して地域の文化・歴史への理解を深めるとともに、留学生と学生の国際理解を推進しています。

7月末には今年度3回目を実施。「北九州市立いのちのたび博物館」から世界遺産登録が決まった宗像大社を經由し宗像市の鐘崎海岸を訪れました。

博物館では「たくさんの恐竜たちと当時の環境が復元されたジオラマは刺激的で面白い」などの声上がり、新鮮な驚きを感じていました。その後、福岡の旬な野菜を中心にした新鮮食材のピュッフェで昼食をとり、宗像大社を経て最後の目的地の鐘崎海岸へ。

真っ青な空と海が広がる風景を一目見るや、全員が喜びの声を上げました。海が初めてという留学生もおり、最初は海に足をつけるだけでしたが、なんと最後は、ほとんどの留学生が海へ飛び込みました！中国、韓国、日本の学生皆でおしゃべりをし、初体験のスイカ割りですいかを食べました。

8月帰国の留学生もいますが、県立大で築いた友情はずっと続いています。



## 派遣留学生だより

### ～韓国の三育大学校へ留学して～

私は2月の末から韓国で留学生活を送っています。外国語を話すことに憧れており、一年間韓国に住めば話せるようになるだろうと思っていました。ところが韓国語スクールが始まってから、努力なしには上達できないことを痛感しました。当時は韓国人との接点も少なく、一年経っても話せないのではないかと不安になりました。しかし、話せないままで帰国するのは絶対にしたくないと思った私は、自分から韓国人に接していこうと決心しました。今では毎週会う友人ができ、色々な友人と4回もキャンプに行きました。私はたくさんの友人に恵まれたおかげでこの半年間を充実して過ごせた気がします。何より友人は私に韓国語能力試験の機会を与えてくれたので、とても感謝しています。試験を目標に勉強すると、韓国語を授業の進度よりも早く習得できたり、話せる自信がでてくると外出することが楽しく感じました。これからの半年間は、アルバイトや習い事を経験して新たな友人を見つけたり、韓国での社会経験を積んでみたいと考えています。

人間社会学部 社会福祉学科 2年 森田 希望

## 1年留学&4年で卒業！

## 交換留学4年次卒業ルートのご紹介

福岡県立大学の国際交流は、規模は大きくありませんが、他の大学にはあまり見られない“キラリ”と光るものを持っています。今回はその一つ、長期留学（1年間）をしても4年間で卒業できるルート（4年次卒業ルート）を紹介します。

本学の特徴的な教育プログラムに、全学横断型教育プログラムというものがあります。その中に、「総合人間社会コース」があります。この魅力的なコースを進めば、4年次卒業が可能になるのです。

現在のところ、総合人間社会コースは、人間社会学部の学生向けとなっています。人間社会学部であれば、どの学科の学生もこの総合人間社会コースを進むことがで

きます。ただし、4年間で国家資格や免許を取得したい場合には、履修の関係上、通常の5年次卒業ルートとなることがありますので、事前に学生支援センターに相談してください。

すでにこのルートで留学した学生が1名います。3年生の時に韓国（大邱韓医大学）に1年間留学したのですが、帰国してすぐに就職活動を開始し、めでたく内定をいただいています。現在、2人目の4年次卒業ルートの学生が中国（南京師範大学）に留学中です。

留学すれば世界がまったく変わる！福岡県立大学の多様な留学ルートで世界に大きく羽ばたいてください。

国際交流センター長 松浦 賢長

## 認証評価を受けて

本学は、独立大学法人大学改革支援・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価を昨年度（平成28年度）に受審しました。

認証評価制度は、大学の教育研究活動等の質を保証するため、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を定期的（7年以内ごと）に受けることが義務付けられた制度です。認証評価では、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況を評価する10の基準を全て満たしていることが求められています。

本学は、今回の認証評価の受審に向けて、柴田洋三郎理事長・学長のもと、平成27年度に認証評価WGを設置し、着実に作業を進めてきました。昨年6月に大学改革支援・学位授与機構に自己評価書を提出し、11月に訪問調査を受けました。

その結果、平成29年3月23日に「大学評価基準を満たしている」と認定されました。全学横断型科目導入、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」等の実践的能力向上を目的とした特色ある教育への取組、国家資格試験合格率の高さ、地域に貢献できる人材育成に成果を上げて

いるなど8つの点が高く評価されました（大学HPで公開）。このような評価を受けることが出来たのも、柴田理事長・学長のもと、大学の教職員の皆様が力を合わせて地道に取り組んでいただいたおかげだと感謝しています。



今回の認証評価で助言された点については、今後の教育研究及び大学運営の改善につなげると共に、学生および保護者の皆様、地域の皆様のご期待にお応えできるよう、教育研究の充実・発展、地域貢献に教職員の皆様と共に引き続き取り組んで参りたいと思います。

## 図書館本館にPC40台を導入しました

最近、コンピュータやスマートフォンで多くの情報を得ることができるようになりました。情報処理教室では、ネットの情報を元にレポート執筆に取り組んでいる学生たちを見かけます。しかし、それらは玉石混交で、見分けるための確かなスキルが求められます。一方、図書館にある情報は、いくつかの編集過程を経て出版されたものなので、質が保証されています。

今年の3月、図書館本館にノートパソコンを40台追加導入しました。これにより図書館における情報検索環境が大幅に改善されました。「図書館に行くと、本でもネットでも調べることができ、満足のいくレポートを書けるようになった。」という学生の声もあります。



情報の宝庫である図書館をたずねてみてください。ノートパソコンを使うには、学内の方の場合は、大学のIDとパスワードを入力してください。学外の方は、図書館スタッフにおたずねください。

## 田川市立伊田小学校よりひまわりが寄贈されました

田川市の多世代ボランティア育成支援花植え事業の一環として、田川市立伊田小学校の3年生よりひまわりが本学に寄贈されました。寄贈の際、田川市立伊田小学校の児童から、「田川地域のみなさまへの日頃の感謝を伝えたい」、「田川の町や学校をきれいにしたい」という想いからひまわりを植え、育てたことが伝えられました。

きれいなひまわりを本学に寄贈していただき、田川市立伊田小学校様に心より感謝を申し上げます。



# 「九州北部豪雨」 支援募金活動

平成29年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心に九州北部で発生した「九州北部豪雨」は、甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りしております。

本学でも、複数の学生が被災地での災害ボランティアに参加していますが、授業や実習等の都合でなかなか現地に赴くことができない学生を中心に声が上がリ、社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、「九州北部豪雨」の支援募金活動を行いました。

この募金活動は、看護学部3年生の渡海谷美玖さんからの活動相談を受けて活動が開始され、7月12日から19日までの間に、延べ30名の学生が募金活動に参加しました。

募金活動は、大学構内、大学事務局内、田川伊田駅において実施し、学生、大学教職員、そして田川市民の皆様から総額71,884円の募金をいただきました。

皆様のご協力、誠にありがとうございました。

この義援金を被災地に届けたため、福岡県立の3大学（九州歯科大学、福岡女子大学、福岡県立大学）が合同で福岡県に贈呈し、県から被災地に贈られることとなり、9月6日に福岡県庁において贈呈式が行われました。

本学学生を代表して、看護学部3年生の渡海谷美玖さんと土路生理奈さんが江口勝福岡県副知事に義援金目録を手渡しました。

江口副知事からは、県立三大学の学生が被災地を思い、このように募金活動をしてくれたことが本当に嬉しいと、義援金贈呈の感謝とともに募金活動のねぎらいの言葉が学生たちに送られました。



社会貢献・ボランティア支援センターでは、今後も学生による被災地支援の活動をサポートしていきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

社会貢献・ボランティア支援センター  
センター長 原田 直樹

## 心理教育相談室が10周年を迎えます

心理教育相談室は平成29年10月をもちまして開室10周年を迎えます。

当相談室は、臨床心理士の資格を持った教員を中心に運営し、大学院生の研修機関として、教員の指導のもと、主に大学院生や大学院修了生が相談をお受けしております。対象年齢の制限はなく幼児から高齢者まで、さまざまな悩みやお困りのことについて、心理学の立場から継続的なカウンセリング（お子様の場合は遊戯療法）を行います。

現在では、不登校を中心に様々な相談内容に対して、年間約1,000回程度のカウンセリングを行っております。開室当初より発展するかたちで、10周年を迎えられるのも、多くの方のご支援、お力添えによるものと深く感謝しております。

この度は、地域の皆様に相談室のことを知っていただく機会として、9月18日に、九州大学名誉教授のきたやまおさむ先生をお招きし、『「心」をみつめて—あれと、これと、分けられない自分を巡って—』と題して開室10周年記念公開講演会を開催し、470名を超える方々が参加されました。

今後も教育機関や医療機関との連携を深めながら、地域の皆様にお役に立てるよう、スタッフ一同研鑽を積んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

福岡県立大学大学院  
心理教育相談室開室10周年記念公開講演会  
**きたやまおさむ講演会**  
**「心」をみつめて**  
—あれと、これと、分けられない自分を巡って—

答えはいくつもあると気づくこと…  
…そして、答えを求めて葛藤する過程の  
大切さに気づくこと  
人が生き抜く上で大切な姿勢とは…

料金は無料

日時 **2017年9月18日(祝)** 13:00 受付開始  
13:30 開始 15:30 終了

講師 **きたやまおさむ 先生**

講師紹介  
～精神科医、研究家、そして超々作家～  
精神科医、臨床心理士、福岡県立大学大学院人間健康科学研究科教授を経て2010年度産学連携九州大学名誉教授、志山健康院長、京都府立医科大学でポストドクター・フェローとして3年連続に留任し、1997年「藤つまたつと子イデオロギー」代表作に『あの嵐らしき僕ももう一度』『心は誰か(著) 藤立美津子』など多数の文学作品を刊行し、2014年『心』で第13回読者文学賞を受賞。

＜刊行＞ 地 志保 (福岡県立大学大学院)

場所 **福岡県立大学 講堂** 〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地

対象 地域の一般市民、教員、幼稚園教諭、保育士、対人援助に関わる専門職(臨床心理士、保健師、看護師、福祉相談員)など、[心]に関心のある方はどなたでも。

申し込み  
①申し込み 会場予約のため、できるだけ早めの申し込みください。当日参加も可能ですが、席に限りがありますので、満席になった場合は参加申し込みの方を優先させていただきます。  
②申し込み先 下記の電話番号もしくはEメール 申し込み先: mail@psy-edu.kuc.ac.jp にて申し込みください。①お名前 ②ご職業・ご所属 ③連絡先

福岡県立大学大学院 心理教育相談室  
〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地  
TEL: 0947-42-1540 FAX: 0947-42-1541



## 運動系サークル 硬式野球部

こんにちは！私たち硬式野球部は、部員16名、マネージャー15名の計31名と、外部指導者1名で活動しています。

平日は県立大のグラウンドで講義終了後に、休日は他大学との練習試合などを中心に活動しており、毎年春と秋に開催されるリーグ戦で上位に進出することを目標にしています。全員が野球上手なわけではありませんが、ライバルの大学に少しでも追いつき、試合に勝てるよう日々の練習に励んでいます。

このサークルの良いところは何と言っても部員同士の仲の良さです。先輩後輩関係なく仲が良く頻繁に遊びに行ったりもしますし、夏休み中には部員全員で遊びに行くなど、野球以外の行事もたくさんあります。

大学で心機一転何か始めたいと思っているけれど、硬式野球と聞いて、「ボールが怖い…」とか、「経験者じゃないと厳しいのだろうな」と思っているそのあなた！心配ありません。現にプレイヤーの半数近くは野球さえやったことのない人たちです。そんな人たちが活躍して今の硬式野球部が成り立っています。是非一度硬式野球部の練習を見に来てください！辛いこともたくさんあるかもしれませんが、将来必ず役に立つ経験がたくさんできると思います。部員一同新入生の皆さんと楽しい大学生活を過ごせることを楽しみにお待ちしております！

【部長】人間社会学部 公共社会学科  
柳原 尚之



## サークル紹介



### 文化系サークル ハンドポスト

こんにちは！私たちハンドポストは、福岡県立大学の手話サークルです。部員総数は現在71名まで増え、とても賑やかです。

主な活動は、週に一度の定例会、学内・学外イベントにおける手話コーラスのステージ発表の2つです。

週に一度の定例会は、毎週火曜日の放課後に開催し、ゲーム等を交えながら楽しく手話にふれています。回を重ねるごとに、部員の手話の上達が目に見えて分かるので、毎回とても充実した時間となっています。

手話コーラスのステージ発表では、楽曲に合わせて手話を披露する「手話コーラス」を様々な場所で行います。学内では、4月に新1年生へ向けて行われる「サークル紹介」や、11月に本大学で開催される「秋興祭」のステージ等で手話コーラスを披露しています。学外では、12月にチャチャタウン小倉で行われている「献血イベント」に毎年参加させてもらっており、また今年の9月24日には、田川市の障害者施設「つくしの里」が開催する「つくし市」のステージにて手話コーラスを披露します。ご都合がよろしければ、私たちの手話コーラスを是非是非見に来てください！

部員は、大学に入って初めて手話を勉強した学生ばかりです。だからこそ、とても新鮮な気持ちで手話を学んでいます。「相手の心にしっかりと届けられるような手話表現」を目指し、これからも部員一同頑張っていきたいと思えます！

【部長】人間社会学部 人間形成学科  
橋木 翼







人間社会学部 こどもコース  
准教授 大久保 淳子

## 「保育専攻学生の 子ども時代の生活体験の実態と 保育の実践との関連」について 研究しています。

### ① 研究の背景

「乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期」であり、これは、ノーベル経済学を受賞したヘックマンの研究や経済協力開発機構（OECD）の調査報告においても明らかです。これらの知見を踏まえて、諸外国や日本において、様々な教育政策や改革が行われています。幼児期の教育（就学前教育）は、学校教育との接続の視点からも重要です。平成29年3月に公示された改定後の幼稚園教育要領・学習指導要領では、改定のポイントとして「体験活動の充実」が掲げられています。近年、子どもの育つ環境の変化や少子化に伴い、子どもの生活や自然と関わる体験に影響を及ぼしています。平成22年以降、国立青少年教育振興機構が実施した「子どもの体験活動の実態」や「青少年の体験活動の実態」によると、「子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力が高い傾向にある」ことを示唆しました。このことから、保育者の子ども時代の生活体験の不足は、子どもへの指導にも影響を及ぼし、「保育（質の高い保育）の実践と関連がある」と考えられ、保育専攻学生の子ども時代の生活体験について、先行研究と同じ質問紙で調査をしました。なお、「今後の青少年の体験活動の推進について（平成25年 中央教育審議会）」によると、体験活動とは、「生活・文化体験活動、自然体験活動、社会体験活動」と定義しています。

### ② 研究の成果

調査の結果、保育専攻の学生においても先行研究と同様の結果が得られました。特に自然体験活動と生活・文化体験活動とは関連があり、以上から、子ども時代の豊かな生活体験の重要性を再確認しました。注目すべき点として、先行研究で「日本の昔話を話すことができる」と「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったことがある」の質問について「関連があった」としていましたが、筆者の結果でも同様でした。これは、興味深い点です。これについて、なぜ、関連があるのかについて分析したいと思います。

### ③ 今後の展望

今後、これらの結果を踏まえ、養成校において不足している体験を補う教育内容・方法や新任の研修内容を再

考し、理論と実践の往還ができる保育者を養成したいと思っています。

また、昨年、ベトナムの幼稚園から指導・助言の依頼があり、他大学の教員2名と12月にホーチミン市内の幼稚園を訪問しました。ホーチミン市師範大学の教員とベトナムと日本の保育・教育について意見交換をする機会もあり、文化による体験の違いと保育について、今後の研究につなげていきたいと考えています。以下の2枚は、視察時の写真です。



▲朝食風景



▲設定保育風景

# 新規採用 教員紹介

|| H28.10.1付 採用



附属研究所 特任教授  
**古橋 啓介**

平成28年10月1日付けで附属研究所特任教授として再雇用されました。平成26年3月31日まで本学に勤務していましたので2年6ヶ月ぶりの再就職です。任務は附属研究所総合企画室における研究を推進することで、現在は「地域教育課題に関する研究」を中心に行っています。また、教育面では人間社会学研究科子ども教育専攻の設置に伴う新設科目である「子どもの心理研究」等の関係科目と実習科目や修士論文指導科目を担当しています。再びお役に立てることを喜んでます。よろしくお願いいたします。

|| H29.4.1付 採用



人間社会学部 准教授  
**井上 奈美子**

緑あふれる田川で教育研究活動ができることを幸せに思っています。大学では、就業力向上関連の教育やインターンシップを担当しております。専門は大きく3つで、キャリア論(職業と人生を考える分野)、人の雇用と教育、女性の活躍推進分野です。キャリア教育の出前講義、地域における若年者雇用活性化、企業の人材育成、女性の活躍推進にも尽力したいと思います。学生が主体的に地域の人々と共に学び成長する機会を創造して参りますので、何卒ご教示のほどをよろしくお願いいたします。



人間社会学部 講師  
**阪井 裕一郎**

本年度より人間社会学部公共社会学科に着任した阪井です。専門は社会学で、特に家族や結婚について研究をおこなっています。近年、事実婚やLGBT、養子・里親制度、ひとり親家族、再婚家族など、家族関係の変化に注目が集まっていますが、現在はこうした新たな家族・共同生活に焦点をあてて国内外で調査を実施しています。社会学の研究者として、教育と研究、地域貢献に全力で取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



人間社会学部 講師  
**坂無 淳**

本年度4月に着任いたしました。専門分野は社会学とジェンダー研究です。主に社会統計学やジェンダーに関する授業を担当します。研究では男女の平等や性別役割分業について、データを集めて分析することで、社会的に何が明らかになるか、どのようにジェンダー平等を達成できるか研究しています。最近では研究者という職業でのジェンダー平等、コミュニティと子育て、大学教育におけるファシリテーションの技法について研究しています。どうぞよろしくお願いいたします。



人間社会学部 講師  
**吉武 由彩**

本年度より人間社会学部公共社会学科地域社会コースに着任いたしました。福祉社会学、地域社会学、社会調査関連の授業を担当しています。研究は、非対面のボランティア的行為に関する研究、農山村高齢者の生活に関する研究の大きく2つに取り組んでいます。ボランティア的行為の研究では、献血者への調査から見知らぬ他者への贈与の実態を分析しています。農山村高齢者の研究では、社会参加活動、生きがい、社会関係等の分析をしています。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 准教授  
**古庄 夏香**

本年度より、看護学部臨床看護学系成人看護学領域の教員として慢性看護学の授業を担当しています。臨床では特に患者さんやご家族と一緒にその人の生活スタイルに合った療養生活を考えていく事の大切さを感じていました。その経験を授業中で学生に伝えていきたいと常々考えています。県立大学のある筑豊地区は高齢化が進んでいる地域でもありますので、今までの経験をもとに地域住民の皆様健康に寄与できるような活動も行っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 講師  
**塩田 昇**

4月より看護学部基盤看護学系に着任し生態機能看護学を担当しています。集中治療室で6年、専門学校・大学で18年働いてきました。患者様に寄り添う看護に加えて心や身体のメカニズムを理解し、根拠に基づいた看護を実践できる学生を育てることができる教員になりたいと思います。期待と同時に緊張や不安もありましたが、先生方を始め周りの方々に助けられ、なんとか慣れることができました。未熟で至らぬ点が多いと思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



看護学部 助教  
佐多 愛子

はじめまして。佐多愛子と申します。私は、鹿児島で“糖尿病看護”に重点を置き、実践経験を重ねてきました。この度、糖尿病看護師認定看護師育成に携わる事になり、本年度4月から福岡へ移り住んでいます。教員経験はありませんが、実践での学びを活用しながら、先生方にもお力添えを頂き、学生と共に成長していきたいです。OnOffのメリハリを付け、時々糖尿病の国から抜け出してUSJ(年間パスポート)への旅行を楽しもうと計画実行中です。よろしくお願いたします。



看護学部 助教  
道園 亜希

本年度より、看護学部臨床看護学系女性看護学領域に着任いたしました。私は本大学助産課程の卒業生です。横浜の総合病院での産科臨床経験を経て、再び本大学修士課程へ進学し、一昨年度修了いたしました。このような形で母校に戻ってこれたこと、そして、恩師である先生方と共に教育・研究・社会貢献に携われることを大変嬉しく思っています。まだ不慣れなことも多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## || H29.5.1付 採用



看護学部 助手  
清原 智佳子

本年度5月より臨床機能看護学領域に着任しました。臨床経験は25年。内科、外科、NICU(新生児集中治療室)、緩和ケア病棟と多岐に渡り学ばせていただきました。臨床を離れ、メキシコの保健室で2年。帰国後、看護科5年一貫高校、当大学ヘルプ領域、実験看護領域で、産休代替として従事しました。好奇心があれば、看護の世界は大きく広がります。楽しく、前向きにご支援していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 助手  
笹山 万紗代

本年度5月より、看護学部臨床看護学系成人看護学領域に助手として着任いたしました。臨床では大学病院の手術室看護師として勤務し、患者様の生命に関わる緊張した環境の中で、看護の難しさと共にやりがいを感じておりました。臨床を離れ、本大学で教育に携わる機会をいただき、学生と共に改めて看護を学び看護の奥深さや楽しさを感じました。今後は演習や実習を通して学生に看護の楽しさを伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 助手  
田原 千晶

5月より看護学部の助手として着任いたしました田原千晶です。これまではJCHO九州病院小児病棟にて、急性期から慢性期、内科から外科に至るまで幅広い看護に携わって参りました。大学では、これまでに私が感じてきた看護を作り出す面白さや、実践する楽しさを学生の皆さんへ伝えていきたいと思っております。また、研究者として、子どもにかかわる領域の研究に着手し、自分自身も成長していけるよう努力して参りたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



看護学部 助手  
平塚 淳子

私は、病院の看護師として勤務し、子育てをしながら本学の大学院で学び、5月より看護学部の助手として着任いたしました。臨床では、在院日数の短縮化に伴い、多くの問題を抱えたまま、退院している現状がありました。そのため、入院時より在宅の視点をもつことに加え、早期からの退院支援が求められていると考えています。今後、このような様々な課題解決に向け、学生の皆様が臨床で活躍できるように、教育に努めて参存です。どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 助手  
吉田 麻美

平成29年5月より臨床看護学系小児看護学領域に着任いたしました。主に小児看護学実習に関わらせていただいております。これまで、小児科病棟・NICU・障がい児訪問保育事業で看護師として従事してまいりました。これまでの臨床で培ってきた経験を活かし、学生に小児看護の楽しさを伝えていけるよう教育に携わりたいと考えております。ご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2017(平成29)年度

科学研究費助成事業 研究一覧

〔人間社会学部〕

〔看護学部〕

研究種目	氏名	研究課題名
基盤研究 (B)	(准教授) 藤澤 健一	沖縄における教育指導者層の変容過程に関する研究—沖縄戦前後の人的構成に着目して
基盤研究 (C)	(教授) 池田 孝博	主観評価と客観指標に基づく剣道に適した専用サーフェイスの検討と開発
	(教授) 田代 英美	平常化する地域社会の見えない避難—広域避難者にとって生活再建とは何か
	(教授) 田中 哲也	エジプト高等教育のグローバル化における「外国大学」の教育社会学的研究
	(教授) 平部 康子	子どもの法益主体性を支える社会保障法制に関する比較法的検討
	(教授) 本郷 秀和	「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」
	(准教授) 奥村 賢一	不登校児童生徒の早期発見・未然防止に向けたスクリーニングシートの開発
	(准教授) 中村 晋介	大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築
	(准教授) 水野 邦太郎	認知的/社会文化的アプローチを融合した多読プログラムの開発とその教育的効果の検証
	(准教授) 麦島 剛	ADHD動物の不注意脳波と不注意オベラント行動への環境調整と治療薬の有効性の原理
	若手研究 (B)	(准教授) 佐野 麻由子
(准教授) 鷲野 彰子		ピアノロールの計量的解析によるワルツ作品の演奏分析
(講師) 伊勢 慎		質的・量的にみる保育士の長期勤務におけるポジティブな要因に関する研究
(講師) 河野 高志		地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法と効果に関する研究
(講師) 吉武 由彩		過疎地域における共助の論理の検討による包括的ボランティア論の構築に関する研究
研究活動スタート支援	(助教) 畑 香里	大腿骨骨折を経験した女性高齢者への支援に関する基礎的研究
	(講師) 阪井 裕一郎	家族をこえる多元的なホームと共同生活に関する社会学的研究

研究種目	氏名	研究課題名	
基盤研究 (C)	(教授) 赤司 千波	高齢者施設の終末期ケアマニュアルの開発-介護付有料老人ホームに焦点を当てて-	
	(教授) 江上 千代美	トリプルP介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか	
	(教授) 尾形 由起子	地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発	
	(准教授) 石田 智恵美	看護学生の知識の構造化を目指した演習・実習連携授業の開発	
	(准教授) 石村 美由紀	行政が担う不妊専門相談センターを活用した不妊支援システムの構築	
	(准教授) 四戸 智昭	不登校・ひきこもりの子を抱える「支援困難な親」のためのセルフチェックリストの研究	
	(講師) 加藤 法子	経験知に基づいた吸引技術教育の検討	
	(講師) 吉川 未桜	先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究	
	若手研究 (B)	(助教) 梶原 由紀子	インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発
		(助教) 清水 夏子	看護基礎教育における東洋(漢方)医学教育の必要性の検討
(助教) 檜橋 明子		在宅療養する神経難病患者を支えるインフォーマルサポートに関する基礎的研究	
挑戦的萌芽研究	(准教授) 渡邊 智子	高齢者の身体活動量維持のためのM-Testを用いたセルフマネジメントに関する研究	
	(講師) 藤野 靖博	段ボール離被架とカプサイシジンを用いた睡眠導入効果の検証	

福岡県立大学基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実を図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の実施に活用されますが、用途を指定することもできます。

皆様方からの格別のご協力とご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

【ご寄附のお申込み方法】

「福岡県立大学」のホームページに詳細をご案内しておりますのでご確認いただくか、下記の連絡先にお問い合わせ願います。

【連絡先】

経営管理部総務財務班 TEL : 0947-42-2118

